

LPガスCP速報(2026年2月積)

1. 2月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **545** ドル (前月比+20 ドル)

ブタン **540** ドル (前月比+20 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガスは需要の最盛期、極東、米国は大規模な寒波に見舞われ、暖房需要が増加、石化需要も堅調、供給は産ガス国の積載数量制限、積日の後ろ倒しの要請もみられ、タイト化が進んだ。中国PDHの稼働率は70%を維持、インドからも引き合いが強く、先物市況は、需給逼迫を示すバックワーデーション(期近高期先安)が続いている。CFR市況は続伸、第4週中東～極東着プロパン600 ドル (前週比+30 ドル)、ブタン630 ドル (同+30 ドル) どころで推移した。

米国市場をみると、需要は寒波の影響で大幅に増加、輸出は濃霧の影響で遅延が発生したもの堅調、過去最高水準(グラフ③参照)で推移している。全米プロパン在庫は、需要期の取崩しが続いているが、超高水準で5年平均レンジを上抜けている(グラフ②参照)。モンベルビュープロパンスポット価格は月間平均では前月比13 ドル 反落の323 ドル/ト どころだが、下旬の大寒波で急反騰、21日には30 ドル 上げの346 ドル/ト を付けている。天然ガス価格は期近2月限が急騰、ヘンリーハブスポット価格は月末に7.46 ドル (22年9月以来高値)まで上昇した。

フレート市況は堅調ながら弱含みで推移した。中東市場では傭船需要が弱く、長距離の米国向けを志向する船主もあり、余剰船舶を米国市場が吸収できるか、傭船側は様子見も。フレート市況は中東～極東70～80 ドル 、米国～極東130～140 ドル で推移しているが、米国は濃霧による積出遅延に続き、記録的な寒波に見舞われ、一時的に船舶需給がタイトになる懸念もあり予断は許されない。

ナフサ市況は反発、月間平均は前月比8 ドル 上昇の562 ドル/ト どころ。原油市況に連れ高、中国のナフサ石化需要が堅調で、下旬以降は570～600 ドル の推移となった。

バンカーオイルをみると、シンガポールIO380は7カ月ぶりの反騰、月間平均で前月比25 ドル 上昇の381 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は続落、前月比8 ドル 下げの628 ドル どころ。低在庫が解消に向かったガスオイルは下旬に600 ドル を割り込んだが、地政学リスクと寒波により右肩上がりの急騰、29日に680 ドル に達した。C重油との格差は縮小。

2月CPは前年同月比プロパン90 ドル 、同ブタン85 ドル の下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン4、ブタン5ポイント上昇、前年同月比ではプロパン10ポイント、ブタン11ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東ー日本)	80	80	80	80	80
CP先物指標:P	500	520	530	540	523
CP先物指標:B	495	515	515	530	514

② 原油市況等

1月のWTIは昨年7月以来半年ぶりの急反騰となった。年明け早々、米軍がベネズエラを攻撃、麻薬テロ容疑等でマドゥロ大統領を拘束、トランプ大統領は米国が一時的に「運営」とすると表明、世界中に激震が走った。続いて、グリーンランド領有を巡り関税を打ち出し欧州を牽制、下旬には米海軍空母打撃群を中東に派遣し、イランに対し核協議を迫っている。トランプ発の地政学リスクが原油市場を翻弄、需給ファンダメンタルズは2026年供給超過の見通しとなっているが、ウクライナ戦争・ガザ和平問題の道筋も見えず地政学リスクプレミアムが市況を押し上げた。一方、米国、極東では大寒波が襲い原油、暖房燃料が高騰、先物市場ではプロントスプレッド(期近2限月の値差)の逆ザヤが急拡大した。

○1月積みアラビアン・ライト(1月1～30日までの想定)は62.77 ドル (前月比-0.30 ドル)

熱量等価AL100% プロパン514.85 ドル/ト ブタン507.59 ドル/ト

AL比 プロパン105.90% ブタン106.39%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

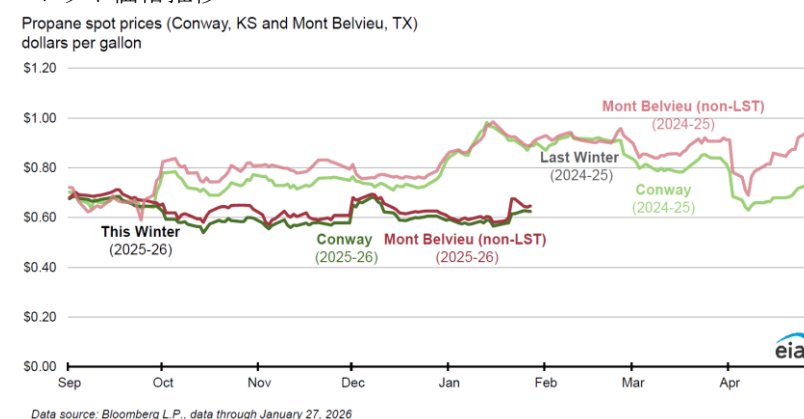
2. 2026年2月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
1月月間	157.78	90,100	93,500	+2,800	+4,900

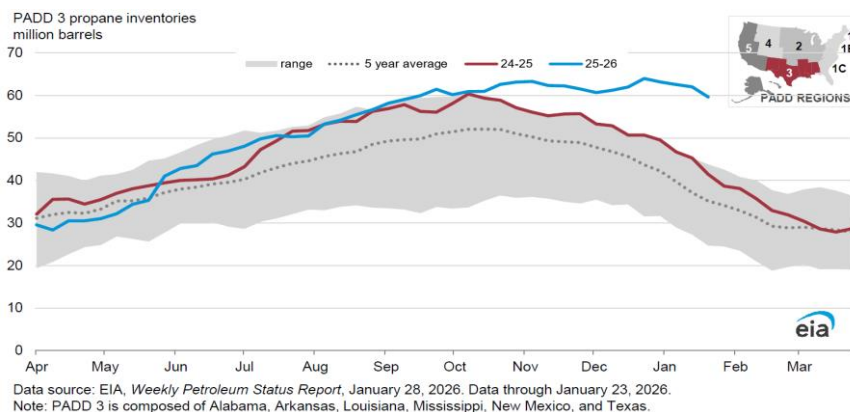
* TTS平均等について、上記は1月1～30日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは1月29日までの価格を基にEINで試算（323ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

① 米国プロパンスポット価格推移



② 米メキシコ湾プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量推移

